

くにしてい しせき

国指定史跡

く る べ か ん が い せ き

久留倍官衙遺跡

久留倍官衙遺跡は、今からおよそ 1300 年前に四日市市大矢知町にあった、奈良時代の役所と考えられる遺跡です。遺跡の周辺は古くは伊勢国朝明郡訓覇郷と呼ばれていました。奈良時代の歴史書『日本書紀』には、大海人皇子（のちの天武天皇）が壬申の乱（672 年）の際、朝明郡で戦勝を祈願したとの記述があるほか、『続日本紀』にも、聖武天皇が東国を行幸した時（740 年）にこの付近に立ち寄ったとの記述があり、古代の歴史を考えるうえで重要な場所であったと考えられます。



上空から見た久留倍官衙遺跡（平成 16 年撮影）

四日市市教育委員会

発掘から見た久留倍官衙遺跡

久留倍官衙遺跡の発掘調査は、道路の建設に伴って、平成 11 年にはじまりました。平成 18 年 7 月 28 日には、古代の役所の姿が分かる貴重な遺跡として約 2 万㎡が国の史跡に指定されました。

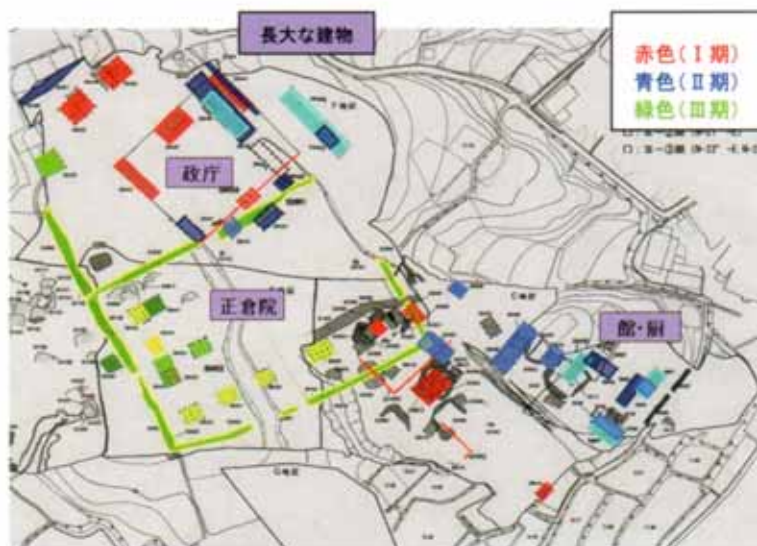
建物は右の図のように、Ⅰ期に「政庁」、Ⅱ期に東西に長い大型建物、Ⅲ期に「正倉院」と時期ごとに場所をかえ、性格の違う施設がつけられていることが分かりました。丘陵の裾にも建物群が広がっていました。こうした施設は、古代の伊勢国朝明郡にあった郡の役所（郡衙）の可能性が高いと考えられます。

政 庁

さまざまな事務や儀式を行う施設です。政庁の入口には門があり、正面の奥まった位置に正殿と呼ばれる中心建物、その左右には脇殿が配置されていました。

政庁の規模

東西約 42m、南北約 51m の広さで、各建物は伊勢湾を望む東向きに建てられていました。全国で確認される政庁の多くが南向きで、久留倍官衙遺跡のように東を向く政庁は珍しいものです。また、政庁の正面に備えられた門は、八脚門と呼ばれ、格式が高いとされています。



奈良時代の建物配置



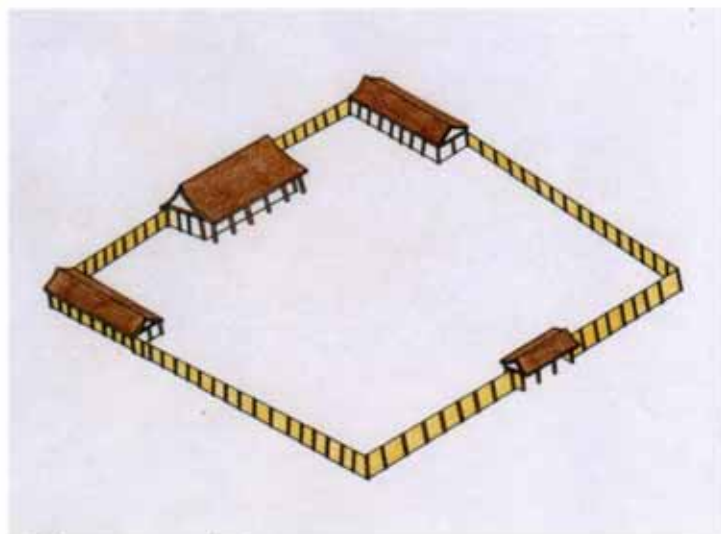
政庁の全景写真（南西上空から）



正殿から伊勢湾を望む（西から）



八脚門（西から）



政庁のイメージ図

長大な建物

長さ29mの東西に長い建物です。政庁の建物がなくなった後に建てられました。柱穴は一邊約1mと大きいものです。見つかった建物のなかでは規模が大きく、政庁とは別の性格の建物と考えられます。



確認した柱穴



長大な建物（南西から）



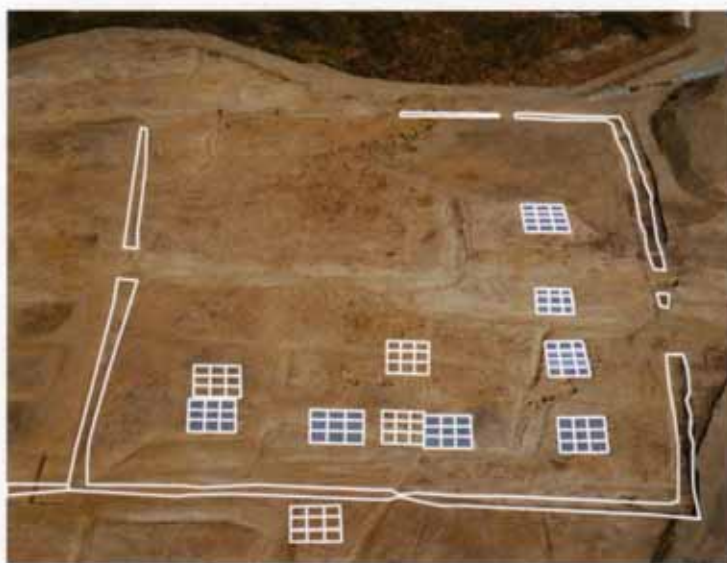
長大な建物（東から）

正倉院

税として納めた稲を保管する施設です。大小の倉庫が方向を揃えて並んでいました。倉庫群の周囲は区画のための溝が掘られていました。

正倉院の規模

東西約69m、南北約99mの広さで、区画の中に倉庫が整然と並んでいました。倉庫は同じ場所で何回か建て替えが行われていますが、溝に沿ってし字に並ぶように計画的につくられていたことが分かりました。



正倉院の全景写真（南上空から）



一列に並ぶ倉庫群（南東から）



確認した倉庫（南東から）

重量を支えたり、湿気を防ぐなどの理由から高床の倉庫が建てられました。倉庫の内側に柱があり、その上に床をかけた頑丈な構造の建物でした。



正倉院のイメージ

丘陵裾の建物群

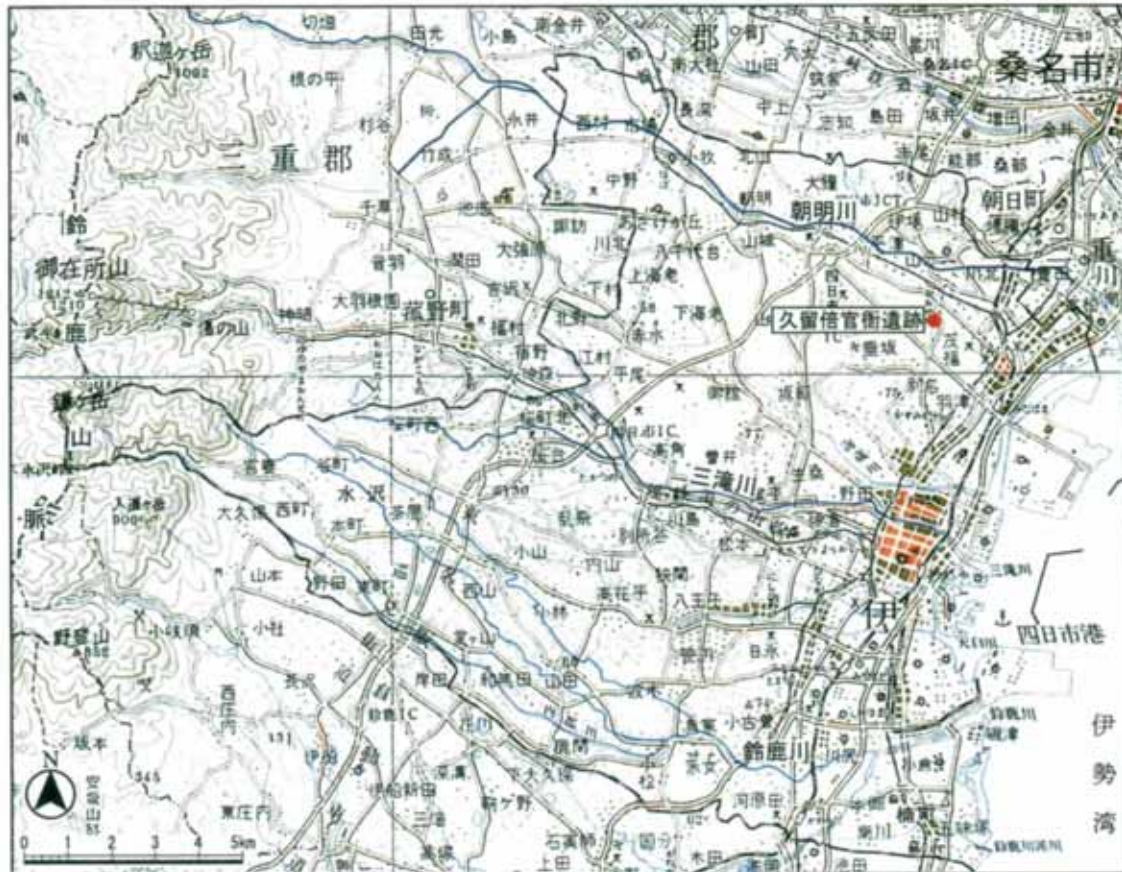
丘陵の裾近くには南北や東西に向きを揃えた建物が整然と並んでいました。
 「館」と呼ばれる宿泊施設や、「厨」と呼ばれる役人の食事などを用意する施設であった可能性があります。



南北方向の建物（南から）



建物群の全景写真（南から）



久留倍官衙遺跡の位置図（国土地理院 1：200,000 地勢図 名古屋より作成）



文化財愛護シンボルマーク

< 遺跡の見学に際しては、社会教育課に事前にご連絡下さい。電話番号：(059)－354－8240 >

平成 21 年 3 月 31 日発行

編集・発行 四日市市教育委員会社会教育課

印刷 東海出版(有)